

## 第五回 諸橋轍次記念 漢字文化理解力検定

## 解答・解説

【問題Ⅰ】(小計44点)

問1【読み書き】①⇨こうりょう ②⇨契機 ③⇨分析 ④⇨あいはい

⑤⇨影響 ⑥⇨故障 ⑦⇨はんも ⑧⇨樹齡 (各2点)

問2【詩人】ウ (2点)

問3【中国史】エ (2点)

問4【四字熟語】復 (2点)

問5【漢字の意味】イ (2点)

問6【国字】いわし (2点)

問7【部首】りっしんべん (2点)

問8【旧字体】ウ (2点)

問9【画数】イ (2点)

問10【中国哲学】ア (2点)

問11【音読みの種類】ウ (2点)

問12【故事成語】エ (2点)

問13【音符が同じ漢字】磁または滋 (2点)

問14【仏教】ア (2点)

問15【同音異義語】エ (2点)

■解説 問1 ①「涼」の音読みは「りょう」。②「契機」とは、なにかが起きるきっかけ。③「析」は「木へん」の漢字。④「はむ」とは、「食べる」の古い言い方。⑤「影響」は、本来、光が当たって生じる「影」と、音が鳴って生じる「響き」。⑥「故障なく」とは、問題や差し支えなどがないという意味。⑦「繁」の音読みは「はん」であることに注意。⑧「樹齡」は、樹木の年齢。どちらも画数が多い漢字な

問10 イ「愛」は、「兼愛」を主張した墨子の思想と関係が深い漢字。ウ「法」は、韓非に代表される法家思想のキーワード。エ「無」は、「無用の用」など、老荘思想で重要な役割を担っている漢字。

問11 イ「漢音」は8世紀を中心とする時代に日本に伝わった中国語の発音が元になった音読み。ア「呉音」はそれ以前、ウ「唐音」はそれ以後に伝わった中国語の発音が元になっている。

問12 正解のエ「学を絶てば憂いなし」とは、学問をやめれば不安もなくなるという意味。孔子が学問を尊ぶのに対して、それに反対するのが老子の思想の特徴。ア「学問に王道なし」は、古代ギリシャに由来することば。イ「学はもってやむべからず」は、荀子のことば。ウ「十有五にして学を志す」は『論語』の有名なことば。

問13 「慈」「磁」「滋」のいずれも音読みは「じ」。「#」の部分が少し変形しているが、「茲」が発音を表す形声の漢字。

問14 正解のア「天上天下、唯我独尊」は、釈迦が生まれてすぐに発したとされることば。この世に自分ほど尊い存在はないという意味。イ「色即是空、空即是色」は、『般若心経』の一節。ウ「南無妙法蓮華経」は、鎌倉時代の僧、日蓮が重視した題目。エ「阿耨多羅三藐三菩提」は、「あのかたたらさんみやくさんぼだい」と読み、仏の悟りの境地を指すことば。

問15 本文の「イギ」は、異なる意見、反対の意見という意味で、漢字で書くと「異議」。アは「威儀」で、重々しい風格。イは「意義」で、きちんとした意味。ウは「異義」で、異なる意味。

(円満字二郎)

【問題Ⅱ】(小計20点)

問1【誤字訂正】①⇨小⇩少 ②⇨新⇩親 ③⇨汚⇩悪 ④⇨胆⇩坦

ので注意。「令」の最後の画は、手書きでは「丶」としても差し支えない。

問2 「国破れて山河在り」は、盛唐の詩人、杜甫の「春望」という詩の書き出し。

問3 宋王朝は、10世紀から13世紀にかけて続いた王朝。ア、イ、ウのように高度な文化を生み出した。エのいわゆる「宋襄の仁」の故事は、紀元前7世紀、春秋時代にあった宋という国にまつわるエピソード。

問4 「一陽来復」とは、すべてが「陰」になったあとに、一つだけ「陽」が戻って来ること。不運が極まって幸運が訪れることや、冬が終わって春が来ることを指して使われる。「春が来る」というイメージに惑わされて、「福」と勘違いしないように注意。

問5 「長じる」は、すぐれるという意味。

問6 「鯨」「鮫」「鯖」は、それぞれ中国にもある漢字。ただし、魚のサバを指して「鯖」を用いるのは、日本語独自の用法。

問7 漢字で書くと「立心偏」。古代文字では「心」と同じ形が縦長になっているのを、「立っている」とたとえた名前。

問8 「医」の旧字体は「醫」。ア「円」の旧字体は「圓」、イ「旧」の旧字体は「舊」、エ「点」の旧字体は「點」。

問9 漢和辞典の音訓索引では、読み方が同じ漢字は画数の少ない順に並んでいる。諸橋大漢和の字訓索引も同じ。「吉」は6画、「景」は12画なので、空欄に入るのは6画以上12画以下の漢字。ア「令」は5画、イ「美」は9画、ウ「瑞」は13画、エ「歛」は15画なので、イが正解。

⑤⇨微⇩懲 (各2点)

問2【歴史書の成立年代】オ⇩ア⇩ウ⇩エ⇩イ⇩カ

(完答6点)

問3【人物と逸話他】エ・カ (順不同 各2点)

■解説 問1 ①「年少」は主語―述語の構造で、「年少し(年が少い)」と訓読できる。対義語は「年長」。②「親展」は修飾語―被修飾語の構造で、「親ら展く」と訓読できる。名宛人自身が開封して読んでほしいの意を表す。③「嫌悪」は並列の構造で、嫌い悪むの意。④「虚心坦懐」は述語―目的語・補語の構造で、「心を虚しくし懐ひを坦らかにす」と訓読できる。心にわだかまりがなく、気持ちがあっさりしているの意。「虚心平気」ともいう。⑤「勸善懲惡」も述語―目的語・補語の構造で、「善を勧め悪を懲らす(懲らしむ)」と訓読できる。

問2 ア『史記』は、前漢の司馬遷(前一七九〜前一一七)の著した紀伝体の歴史書。イ『十八史略』は、宋末元初の曾先之(生没年未詳)の著した編年体の歴史書。ウ『漢書』は、後漢の班固(三二〜九二)の著した紀伝体の歴史書。エ『資治通鑑』は、北宋の司馬光(一〇一〇〜一〇八六)の著した編年体の歴史書。オ『春秋』は、春秋時代、魯の史官が記した編年体の記録を、孔子(前五五一〜前四七九)が手を加えて編纂したものといわれる。カ『日本外史』は、江戸末期の頼山陽(一七八〇〜一八三二)の著した歴史書。『史記』の世家の体裁にならない、漢文体で記されている。

問3 ア「一字千金」は、秦の呂不韋が賓客を集めて『呂氏春秋(呂覽)』を作らせた時、「一字でも添削できた者には千金を与えよう」と豪語したという故事に基づく。非常に価値のある文章をいう。イ「二十四孝」は、古今の孝子二十四人の総称。舜は堯から帝位を禅譲されたことで知られる。曾子、閔子騫、子路は、いずれも孔子の門人。

ウ「孟母三遷」は、『列女伝』にある故事。孟子の母は、環境がわが子に及ぼす悪影響を恐れて、墓場の近くから市場の近くへ、さらに学校のそばへと住居を移し、理想的な教育環境を得たという。エ「四面楚歌」は、楚の項羽が垓下で漢の沛公（劉邦、後の漢の高祖）に包囲された時、四面の漢軍の兵士が楚の歌を歌うのを聞き、命運を悟ったという故事に基づく。孤立無援で味方がないことをいう。関羽は、三国時代の蜀の武将。死後、武神として関帝廟に祀られた。オ「五経」は、儒教の重要な經典。漢の武帝が五経博士を置き、大学でテキストとして用いたことに始まる。「四書」は、『大学』、『中庸』、『論語』、『孟子』。宋の朱熹以来、儒学に志す者の入門書とされた。カ「六花（六つの花）」は、雪の別名。結晶の形が六つの弁を備えた花に似ているところからいう。唐の賈島の詩などに用例がある。キ「戦国の七雄」は、中国、戦国時代の七つの強国。秦、燕、斉、楚、韓、魏、趙の七国をいう。弱肉強食の末に秦の力が強くなり、燕、斉、楚、韓、魏、趙の六国は合従策をとつて秦に対抗したが、すべて秦に併合される結果となった。（塚田勝郎）

### 【問題Ⅲ】（小計15点）

問1【国字】（1）＝c （2点） （2）＝騷（「騷」も正解） （3点）

問2【国訓】むし（る） （3点）

問3【国字】鴨 （3点）

問4【国訓】（1）＝はなわ （2）＝坏 （各2点）

■解説 問1「しつけ」と読む「騷」「騷」は、室町時代に出現し、前者は今もしばしば使われている。また「騷」は江戸時代に現れた。身を美しく、身を花のように、身に何かを益すという意による造字だと

■解説 問1『説文解字』以前にも識字教科書の類はあったが、字義や成り立ちを解説した字典形式の嚆矢は『説文解字』である。形声文字は六書で成り立ちが「从甲乙声」（甲に从う乙の声）という形式で解説され、字の意味や意味領域が甲であり、字の発音が乙であることを示す。「吞」と字形が似ており、「ドン」という発音であることから「B」に入るのは「天」だとわかる。

問2 漢字は一文字が一音節であり、また中国語は基本的に一文字が一語を構成する単音節語である。その例外となるのが連綿語である。連綿語を構成する二字は双声（語頭子音が同じか類似する）、疊韻（韻母（語頭子音以外の部分）が同じか類似する）という関係になっていることが多い。ア「簡単」は語義を「簡素」で「單純」であると分解して説明することができるので連綿語ではない。また双声疊韻の関係にもない。イ「力」はそれぞれ言葉の意味を単字に分解して説明することができないので連綿語。イ「徘徊」は疊韻。（さまよう）という意味。ウ「猶予」は双声。もともと（ためらう）という意味で、日本では（期限を伸ばす）という意味で使われる。エ「齷齪」は疊韻。もともとは（器量が狭い）という意味で、日本ではせわしなく物事を行う様子を形容するときに用いられる。オ「磊落」は双声。（山が高いさま）。小さなことにこだわらないことを「豪放磊落」という。カ「倉卒」は双声。（あわただしいさま）。

問3 ア「男」子音について、ナ行（ナン）とダ行（ダン）の二音の読み方がある場合は、ナ音が呉音。イ「万」子音について、マ行（マン）バ（バン）行の二音の読み方がある場合は、マ行が呉音。ウ「強」子音について、濁音（ゴウ）と清音（キョウ）の二音の読み方がある場合には、濁音が呉音。エ「日」子音について、ナ行（ニチ）とザ行（ジツ）の二音の読み方がある場合は、ナ行が呉音。オ「女」子音について、ナ行（ニョ）とダ行（ヂョ）の二音の読み方がある場合は、

考えられる。このうち、「騷」は武家の礼法の社会で作られ使われていたものが、次第に一般に広まって、多くの国語辞典や漢和辞典に収められた。

問2「むしる」に近い意味を持つ漢字に「菹」（モウ・ボウ ぬく、とる）があった。室町時代になると、それをもとにしつつ、より分かりやすい会意文字を求めたためか、「毛を少なくする」という発想から「菹」という国字が現れた。

問3 シギは田にたたずむ姿が印象的だったために、奈良時代から「鴨」と書かれてきた。国字なので古くは音読みはなかったものの、多用される中で派生した。たとえば和歌にしばしば詠まれた「鴨立沢」に設けられた庵である「鴨立庵」は、デンリュウアンと音読みで呼ばれるようになった。

問4 山の突き出たところや小高いところを意味する和語の「はなわ」には、平安時代から「塙」が当てられてきた。中国ではカクという音で、土がかたい、土が高い様を意味するものであるため、意味にずれを認めて国訓とされている。日本では、江戸時代の検校、塙保己一の名字として有名で、現在でも名字のほか東日本各地の地名に使われている。対義語は「あくつ」で、江戸時代に作られた会意文字の「坏」が多くの漢和辞典に収められている。これは茨城などで地名や姓にもなっている。\*山偏も正解とする。（笹原宏之）

### 【問題Ⅳ】（小計15点）

問1【文字学】（1）説文解字 （2）天 （3）エ （各3点）

問2【連綿語】ア （3点）

問3【日本漢字音】ウ （3点）

ナ音が呉音。

（田中郁也）

### 【問題Ⅴ】（小計6点）

問1【生涯】三 （3点）

問2【業績】イ （3点）

■解説 問1 諸橋轍次は、「諸橋轍次著作集第四卷月報 学窓の思い出（一）」（大修館書店）という文章の中で、「こどもの時分の最初の記憶は、五歳のとき父から『三字経』を習ったことである」と語っている。当時、諸橋の父安平は漢学を主とする小さな塾を開いていた頃である。『三字経』は中国で子供に字を教える代表的なものであり、日本にも伝わっていた。毎句三字で、人としての生き方や日常生活の常識的なことを儒教的に説いたものとされる。

問2 中国留学から帰国すると間もなく岩崎小弥太（三菱第四代社長）から静嘉堂文庫長の委嘱があった。小弥太は父岩崎弥之助（三菱第二代社長）が創設し自らもその拡充に努めた静嘉堂文庫の整理・保存を諸橋轍次に託したのである。以来、諸橋は、貴重な典籍・蔵書類を整理し、目録の編纂事業、岩崎小弥太亡き後の終戦後の動乱期における同文庫の保全など、三十五年間文庫長を務め、世界的文化財の宝庫である静嘉堂文庫を守り通した。いまなお、静嘉堂文庫は多くの研究者に利用されている。（諸橋轍次記念館）